

学校だよりBIG TREASURE

大きな宝

《学校だより NO. 7》

2026年 9月30日発行

栗東市立大宝小学校

児童数488名(9/30現在)

～読書を通して 考える力・感じる力を育む～

10月に入り、いよいよ今年度の学校生活も折り返しの時期となりました。子どもたちも運動会をはじめ、秋の行事に向かって精一杯がんばっています。

さて、日没後の時間が長くなってきた今、読書の秋にふさわしい時期となりました。毎年、国内では10月27日から11月9日までの2週間、「読書週間」として、図書館や書店などで読書を推進する様々なイベントが開催されます。文部科学省のHPには、「子どもの読書キャンペーン ～あなたと読みたい1冊～」として文化やスポーツ、俳優、科学技術等の各界で活躍中の方々からのおすすめの本が紹介されており、大人が見てもわくわくするような本が多く挙げられています。本校においても子どもたちがどんどん図書室に足を運び、本に親しみ、読書活動を充実させるための取組を進めていきたいと思っています。



個別懇談会ありがとうございます ～「^{じしゅ}自主・^{じりつ}自立」を目指して～

9月24日より個別懇談会が始まっています。4月からこれまでのお子様の学習や生活の様子をお伝えするとともにご家庭での様子や心配事などをお聞きし、今後のよりよい成長に向けた共通理解を深める場にしたいと考えています。お忙しい中ですが、ご参加よろしくお願いいたします。



日々、子どもたちは、さまざまなことと出会い、成長・変化していきます。6年間で大きく成長する子どもたちは、高学年では思春期の入り口を迎えます。「10歳の壁」と言われる子どもの発達時期には、思考力や理解力が増し、自分を客観的にとらえ、論理的に物事を考えられるようになります。低学年の頃は、「自分は何でもできる」という感覚を持っていた子どもが、中学年ぐらいで、他者と自分の違いを自覚し、自分にはできないことがあると自覚して劣等感を持ったり「大人の言っていることは正しいのか」と反抗したりする経験しながら、自分の世界を広げながら大人に向かって自分を作り直していきます。

そんな時期には、子どものよさが発揮できるような場を作り、よさを認めて自尊感情・自己肯定感を高め、人との望ましい関わり方を押し付けではなく自分で考えられるように関わっていくことが大切です。

小学校で目指すものを一言でいうと、「自主・自立」です。自分で学び、自分で考え、行動できることをめざします。子どもたちにとっては、毎日が新たな経験の連続です。先回りして失敗しないようにするのではなく、「失敗を恐れず、失敗から学ぶ」ということをご家庭でも大切にいただけるとありがたいです。個別懇談会よろしくお願いいたします。

校長 松濱 秀幸